
子分の期待

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

子分の期待

【Nコード】

N1675D

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

うちの処女作「子分の行方」の続きです。読んで、流れというか内容を知っておいたほうがいいと思います。というか、読まないと分からないです。ですが、はっきり言って書き方がめちゃくちゃです。そこは突っ込まないで下さい 平次×和葉（未満？）です。和葉ちゃん一人称に初挑戦しました ちなみに、うちの作家2周年記念だったりもします。（だから何？）ではでは、楽しんでいただけたら嬉しいです（*^-^*）

（前書き）

あらずじをご覧になっていなかもしれない方のために、もう一度。
読まれた方はスルーしてください。

これは「子分の行方」の続きです。

読まなければ話は分かりませんので。

お読みになりました？ では、どうぞ！！

ボーっと歩く平次の左後ろをアタシはついていく。

最近、平次の様子がおかしい。というか、変や。

いつからかって言うと、大体3週間くらい前から。

せや、東京にマジックショー見に行つて事件に会つた後ぐらいから。

どう変かつて聞かれたら、上手く言えへんねんけど……ボーっとしてるが多なつた。

事件のこと考えてるわけでもないみたいやねん。キラキラした目してへんし。

やからアタシは『平次がおかしい』と判断した。

何せ、いつもいつつもやたらとデカイ声で話す平次が、授業中窓の外見て、黄昏てんねんで？ これは異常や。危険や。ヤリでも降るんちゃうかって思う。もちろんこれは、一大事や。

『あの服部平次が黄昏てる』ということは、あつという間に知れ渡

って、何でか理由をアタシに聞いてくる。

「知らんよ」

って答えても答えても、聞いてくる人は途絶えへんかった。せやか
ら、

「分かった！ 今日の帰りに平次に直接聞いてくるわ！！」

って宣言してしもた。

それで今に至ってるわけなんやけど、どうも話しかけれへん雰囲気
が漂ってるっていうか、
上の空の返事しかせえへんのちゃうかっていう思いとかがあって、
何も聞けてへん。

このペースで行ったらあと10分ぐらいで家に着いてまうと思った時、
突然平次が口を開いた。

「子分……」

「は？ 何、平次？」

「え、和葉！？ おったんか」

「お、おったんかって……。まあ、エエわ。ホンマに何も見えてへ
んかったっていうんは、よう分かったし。で、何なん？ 『子分』
って」

「前に東京行った時、和葉んこと子分やて言ったやろ？」
「……うん」

かなりムカついたけどな。

「それで、工藤に言ったことも、確か言ったよな？」
「うん」

工藤くんは、さすがやて思ったし。

「あれから、ずっと考えてたんや」

色んな意味で聞くのが怖かったけど、聞きたかった。

「……何を？」

「何でオレは、あん時子分やて思ったかや」

「へ？」

「せやからな、和葉のこと子分やと思った理由や。やたらとヘラヘラしとる和葉にイライラしてんけど、それが、ホンマに子分やからなんかって思て」

「……」

何か、凄い方向に話がいつてもうてる？

「オヤジが子分を持つてる感じと同じやと思てたんやけど、ちよつと違うような氣いしてきてな？ そうなったら、何であん時子分やて思たんかが分からんくなってきて。なあ、何でやと思う？」

そんなこと、アタシに聞くなーーーーー！！

って、叫んでやりたい、この鈍感男に。

大体、平次の考えなんかがアタシに分かるわけないやんか、このドアホ！

心の中は乱れに乱れ、台風とハリケーンが一緒に来たみたいや。

黙りこんだアタシに、さらに鈍感キング・平次は追い討ちをかけた。

「もし、子分やないんやったら、オレにとっての和葉って何や？」

頭のどこかでブチッて音がしたような気がした。

「そんなん、自分で考えーや！ アタシに聞かんといて！ また工藤くんにはアドバイスもろたらエエやんか！」

そう言い捨てて、目の前まで来ていた家の中に飛び込んだ。

部屋に入って冷静に考えたけど、それだけアタシを意識してくれてるってことやるか？

よ、喜んでエエんかなあ……。

はあ、何でアタシがあのアホのことでこんなにも悩まなアカンのよ。もう止めや。止め。

これ以上考えても、平次のことなんか分からん。期待するだけムダや。

そう結論づけて、今日はもう考えへんことにした。

でも、次の日。また悩まなアカンかってん。それも、やっぱり平次のこと。

学校に行ったアタシに詰め寄ってくるみんなの質問である「何で平次が黄昏ていたか」には「分からなかった」って答えといた。

やって『アタシが子分じゃないなら何か』を考えてたなんて言いたないやん！

この日、平次が剣道の朝練があるから別々に学校に来たせいで知ら

んかったんや。

怒り狂っていたうちゆうことに……。

教室に入ってきた平次は、昨日と打って変わって、元気やった。

……よく言えば、な。

悪く言えば、肩を怒らしてドスドス歩いてた。

みんなからの『聞けよ』オーラをひしひしと感じつつ、勇気を振りしぼって平次に話しかけたんや。

「平次、どうかしたん？」

「和葉……」

って、アタシの顔をじつと見てたと思ったら、手を取っていきなり走り出した。

「ちよつ、平次！？ どこ行くんよ！？」

「屋上や！」

そう答えて、アタシの手を引っ張って走る。

階段を駆け上り、誰もおらへん朝の屋上に着いたときには、ハアハア息してた。

「へ、平次、どないしたんよ、いきなり……」

「……したんや」

「へ？」

「昨日、オマエが言うから、工藤に電話したんや！」

「……」

ホンマにしたんや、電話。

「そしたらアイツ、何て言ったと思う？」

『オメエ、まだんなこと悩んでんのか？ ……ハッ。ガキ』

「そう言つて切りよつてんで！？ オレの真剣な悩みを『ガキ』の一言で片付けよつてんで！？ ……？ 何笑てんねん？」
「プッ、アハハハ……！！！」

必死になつて堪えてたけど、押さえることはムリやった。

「オイ、何やねん!？」

まさか、ホンマに電話すると思わへんかったけど、真剣な悩みやつたんや、アレ。

嬉しいけど、何か複雑や。そりや、工藤くんも困るやろ、こんなこと何回も聞かされたら。

「オイ、答えーや!」

「何もあらへんよ」

ムキになる平次を見てたら、ますます言いたなくなつたし、それに、昨日のお返しや。

何も言つたらへん。

「何もあらへんことないやろ! 気になるやんか!」

しつこい平次に、さらにアタシからのちよつとしたイジワル。

「工藤くん、ゴメンな。平次がアホなこと聞いて」

つて言つてやった。

「んやと、コラー!」

朝の学校の屋上に平次の声が響いた。

授業が始まる前に教室に戻ったアタシが、また問い詰められたのは
言うまでもない。

でも、何も言わへんかった。

ちよっとは期待……してもエエよな？

（後書き）

【これも記念日小説なのかなあ……？】

こんにちは！ ペロコです。初めての方は初めまして。

お読みいただきありがとうございます。期末テスト真っ最中！
にも関わらずこの状況。相変わらずアホです。

純粋な（？）平次×和葉（未満？）で、和葉ちゃん一人称でした。
初めて書いたな、和葉ちゃん一人称は。
でも、関西弁は書きやすいです。

自分のことを『アタシ』という以外は普段と同じ感じですからね。

今回の「子分の期待」は、うちの処女作「子分の行方」の続編と
なっています。読んでくださった方は分かると思いますが、平次は、
あの後きつと悩むだろうと。そんなことを最近になってふと思い、
書いたんです。

楽しんでいただけたなら嬉しいです。平次の悩みは解消されないま
まですが（笑）

実は今日で作家（と呼べるかどうか分からないもの）になって2
年が経ちました。早いな。

昨年は、何でこんな風に書いてなかったかというところ、『キッドsi
de』に時間を取られていたからです。まあ本来なら、今年は勉
強に時間を取られてははずなんですけどね（苦笑）そういえば、こ
のお話で20作品目だ……（今更）

いつも読んでくださる皆様、そしてさらに感想まで下さる皆様、本
当にありがとうございます！ いつもかなり支えられています。感想
をいただけることが嬉しいって心から思います。読者の生の声で
すからね。

初めてペロコのお話を読まれた方。初めまして。こんな作者ですが、
今後読んでくださると嬉しいです。

ではでは、感想などいただけたら嬉しいです。また長くなっ
てしまった……。これからもよろしく願いますね！

クリスマス、書けたらいいな。ムリかな……。書きたい。ネタ、
というか、誰で書くのがいいんだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1675d/>

子分の期待

2010年10月12日03時10分発行